

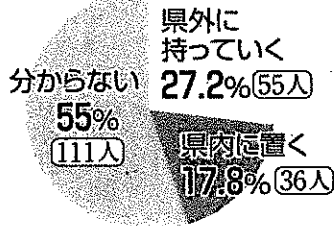
# 核燃料搬出 県民に迷い

あわら市山十楽の元小学校教員橋川洋さん(左)が昨年十月から、原発について独自のアンケートを行った。運転開始から四十年を超える老朽原発の存在を昨年六月に初めて知り、県民の意識を調べたいと思いつたのがきっかけ。アンケート結果からは、使用済み核燃料の県外搬出の是非について判断に迷う県民の姿が浮かび上がった。

調査はアンケート用紙計一万六千二百部を、昨年十月下旬に新聞の全国紙の一部に折り込んだり、街頭で配ったりして、ファクスで回収。今月上旬時点で二百二人から回答を得た。  
アンケート結果で橋川さんが注目したのは「福井県にある使用済み核燃料をどうすべきだとお考えですか」

**県外 27.2%**      **県内 17.8%**

福井県にある使用済み核燃料をどうすべきだとお考えますか？



「？」の問いに対する回答。「県外にもっていく」が27・2% (回答数五十五人)、「県内に置く」が17・8% (同三十六人)、「わからない」が55・0% (同百一十一人)だった。橋川さんは「『わからない』がこれほど多いとは意外だった」と驚く。関西電力は使用済み核燃料の県外搬出を約束しているが、いまだに受け入れ場所のめどは立っていない。橋川さんは「県民は県外搬出を最善策とは考えていないのでは

## あわらの元教員がアンケート

いか」と推測する。

回答のコメント欄には「自分たちで再稼働を決めて利益を得て、そのツケを県外に持って行くのはどうなのか」という言葉があったという。「県外搬出への拒否意識が感じられた。よく考えれば私自身も『わからない』と回答すると思う」と橋川さんは話した。

調査をして良かったと思ったこともある。美浜町と高浜町の両議会は昨年末に相次いで老朽原発の再稼働に同意する判断を下したが、アンケート結果では運転が四十年を超えた原発を「動かすべきではない」とする回答が86・6%に上った。橋川さんは「老朽原発再稼働同意の判断は拙速だったのではないかと指摘していた。」 (藤共生)